

NPO 緑の会

特定非営利
活動法人
NPO緑の会
取手市小文間
3838-1
TEL 0297-
72-8791

新たな堆肥化設備を模索

乾燥・発酵方式の採用を検討

NPO緑の会は、現在1500世帯強の生ごみを回収して堆肥化に取り組んでいます。私たちの目標は取手市全世帯に拡大していくことです。

しかし、現在の堆肥化設備のままではこれ以上拡大することには限界があるため、もっと効率的で効果的な方策はないものかと、これまで検討を重ねてきました。

生ごみ堆肥化設備を検討するに当たって重要なことは、いかに臭いやハエの発生を防ぎ、かつ安価な設備で良質な堆肥ができるかであります。

このことを実現できる重要なポイントは、水分をいかに調整できるかに掛かっていると考えてきました。

私たちはこれまで培ってきた経験と実績に加えて、全国各地の多種多様な生ごみ堆肥化施設の情報収集や視察を行ってきた結果、いよいよ一つの結論に近づいてきました。

その基本は、回収してきた生ごみをまず①破碎し、②乾燥機

に掛けて水分を飛ばし、③EM(有用微生物群)をかけてペレット化し、④袋詰めにして発酵させるものです。

この方式では、①設備の建設費は安価であり、人件費も軽減できます。

日量5トン(現在は1トンの設備を想定して、トン当たりの経費は3万円ほどになります。

(※環境センターの現行可燃ごみ処理費用とほぼ同額です。

※回収に関する経費は除く。)
②生ごみは、搬入後直ちに乾燥処理を行うので、臭いとハエの発生が生じません。

③これまでは、でき上がった堆肥を水分調整のため戻し堆肥として利用していたので、でき上がり堆肥は生ごみ量の10%程度でありましたが、この方式では戻し堆肥の必要がないので約25%の良質な堆肥ができ、ペレット化するので、使いやすい堆肥になります。

近く、この案をさらに精査した上で、取手市や常総環境センターに提案していく予定です。

視察した堆肥化施設

北海道三笠市・埼玉県戸田市

乾燥・発酵方式を導入

本年7月には三笠市の堆肥化施設を、役員全員で視察してきました。

これには取手市の市会議員4名も同行され熱心に視察をされましたが、今後お互いに意見交換し合う機会ができることになり、有難く感じています。この方式は、私たちが今後検討の中心に据えている乾燥・発酵方式と云えるもので、実際に見聞した際にも、臭いやハエの発生はありませんでした。

また、この施設は国のバイオ

マスター構想をとり入れ、事業資金の半額を国が負担し、残りの半額を委託事業者が負担するもので、三笠市の負担は全くありません。三笠市はこれまでどりのランニングコスト



回収された生ごみ(右下のポケット)をグリーン色の自動釣り上げ装置でホッパーに運び、生ごみを投入して粉碎し、やや左中央にある円筒形の乾燥機で乾燥した生ごみを、そのひだりにあるベルトコンベアで振るい機に運び、その後EM(有用微生物群)を掛けて袋詰めし、そのまま45日ほど発酵・熟成させてでき上がる。



を委託事業者を支払うだけでなく、委託事業者は従来のランニングコストだけで投資した半分以上を回収できるという理想的なものでした。

この後、ここでできた堆肥を利用して農家や、その農家が納めている直売所を視察して、今後の検討に大いに役立つ視察となりました。

埼玉県戸田市の「リサイクルフラワーセンター」へは、10月26日にNPO緑の会が企画して視察を行いました。

参加者は、NPO緑の会会員など36名の他、取手市議員4名に取手市環境対策課、同市民活動支援課の職員も加わり総勢42名で、バスは補助席も使うほどの盛況になりました。



戸田市の取組みを熱く語る吉田さん

戸田市の会議室では環境クリン室副主幹の吉田義枝さんから、戸田市がいかに生ごみで花いっぱいなのまちづくりをめざしているかの力強い説明があり、皆さん感銘を深くしている様子でした。

この施設は、名前が示しているように、生ごみの堆肥化施設に立派な花の育苗施設(温室3棟が備わったもので、

①市民がEMボカシを混ぜた生ごみを専用バケツに分別し、

②いっぴいになったバケツを



育苗室で説明を受ける参加者



苗の植付をする障害者の皆さん



生ごみバケツ一杯と交換する花苗

市民がリサイクルセンターに持ち込み、

③乾燥・発酵方式の堆肥化装置で堆肥化し、

④堆肥はリサイクルフラワーセンターで花苗育苗の肥料とする。(毎月6300ポットを

育成している。)

⑤センターに持ち込んだ市民には花苗24鉢が提供される。

このように、生ごみのリサイクルによって花の町づくりを進めることは、大変すばらしい循環型社会の構築に貢献するものでした。なお、この施設で働いているのは障害者や高齢者が多く、福祉にも大いに貢献しています。

堆肥化の施設は、生ごみを乾燥機に入れて、乾燥させたものを振るい機にかけて、EM処理したものを袋詰めして、発酵熟成させる、極めてシンプルなものでした。



乾燥された生ごみが、コンベアで取りだされて振るいに掛けられる様子

この施設の生ごみ処理能力は日量300kgで、現在花苗と交換に訪れる市民のバケツは月平均200個、この他市で回収しているバケツが500個で合計700個のバケツの生ごみが毎月堆肥化されているとのことでした。

会員を拡大し組織を強化して活動していくことを確認 霞ヶ浦をきれいにする会総会を開催 10月3日(日)於:石岡市民会館

きれいにする会の総会が開催され、会員拡大と組織強化を訴え、できることを一つひとつ積み上げながら活動していくことが決議されました。NPO緑の会では、きれいにする会への個人会員としての参加を呼び掛けたところ、ほとんどの皆さんが快く同意していただき、会員拡大の先鞭をつけていただき感謝しています。

お陰できれいにする会の現在の会員は、個人正会員19人、個人賛助会員19人、団体正会員4団体、団体賛助会員1団体に拡大しています。今後は、更に組織を強化し、一步一步活動領域を広げながら、いつか必ず霞ヶ浦がきれいになることを信じて活動していきたいと思えます。



11月7日懇親会で意欲を新たにする会員石岡緑の会の皆さんにお世話になりました。

編集後記

マーヴィン・ハムリッシュの名言(エミー賞、グラミー賞、アカデミー賞などを受賞したアメリカの作曲家)

● 本当の成功とは人生で真に熱中できるものを見つけ、夢を叶えようと努力することだ。

KF

